

令和の里海づくりモデル事業

取組	藻場再生のための取組や様々な地域資源を活用したエコツアーやワークショップを実施。また、森川里海を一体のものとして捉え、都市と地方の交流も含めた関係人口の創出も視野に入れ、幅広い主体を巻き込んだ里海づくりの促進を検討。
概要	持続可能な里海づくりに向けた藻場再生と地域資源の好循環形成、都市部への発信。

背景

地域資源	【自然】 <ul style="list-style-type: none"> 足摺宇和海国立公園に指定。 温暖な黒潮と豊後水道を南下する栄養豊富な海水が混じり合い、多種多様な海洋生物が生息。黒潮の影響で透明度の高い海域。 熱帯・亜熱帯域に主に生息する造礁サンゴと温帯域に主に生息するソフトコーラルが見られる。
	【海産物・食】 <ul style="list-style-type: none"> 多様な海産物を使った郷土料理。 湾内でクロマグロやマダイなどの養殖が営まれている。
	【歴史・文化・町並み】 <ul style="list-style-type: none"> 潮流が激しく波が強いため、浸食防止と防波のための石堤が承応年間に構築。これにより、集落の東側の海域は、穏やかな湾状となり良漁港となった。
地域課題	【アクティビティ】 <ul style="list-style-type: none"> 世界有数のダイビングスポットであり、シュノーケリングやクリアカヌーでも豊かな海中景観を楽しめる。 海水浴、釣り、カヤック
	<ul style="list-style-type: none"> 磯焼けによる藻場の減少 漁業資源の減少・漁獲物の変化 漁業と海域環境の保全の両立

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

【保全】

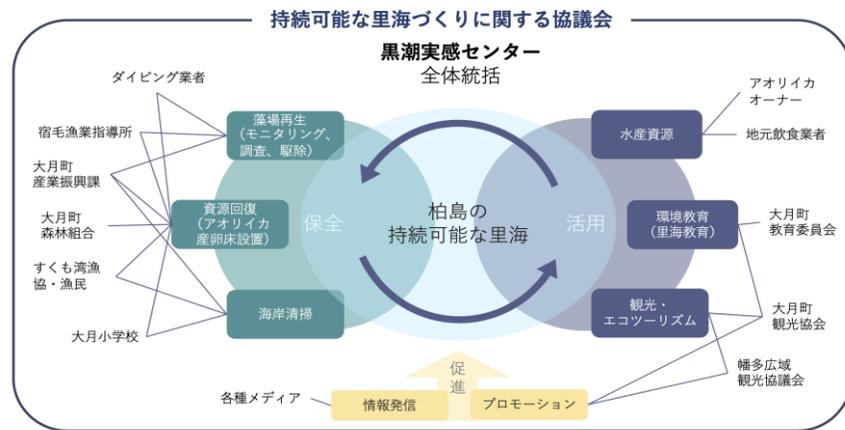
- 藻場の再生活動として、柏島の名物であるところてんの原材料であるテングサ等の母藻を設置。また、食害生物であるウニ類の生息密度調査や駆除活動を実施し、今後の保全計画を検討。

【活用】

- 柏島の海の魅力を体験・実感してもらうためのエコツアーとしてシュノーケリングやクリアカヌー、釣り体験等を実施。また、柏島の海への関心や愛着を醸成することを目的に地域住民等を対象に海浜清掃を実施。
- 新たなエコツアーや里海教育のプログラムやコンテンツを開発することを目的に、柏島の海産物等を活用した郷土料理づくりのワークショップや新たな商品の検討を行い、実現に向けた課題の整理や具体的なプログラムを検討。

【好循環形成・促進】

- 大月町内において、関係者や町民の幅広い主体的な参画と理解のもと、「豊かな里海」の実現を目指し、山・川・里（まち）・海をつなげる施策を総合的に進める里海づくりの推進を図る。
- 好循環形成に向けた協議会メンバーの役割分担や次年度以降の活動方針・活動内容等について検討。



令和の里海づくりモデル事業での取組

<p>取組</p>	<p>藻場再生のための取組や様々な地域資源を活用したエコツアーやワークショップを実施。また、森川里海を一体のものとして捉え、都市と田舎の交流も含めた関係人口の創出も視野に入れ、幅広い主体を巻き込んだ里海づくりの促進を検討。</p>
<p>主な実施内容</p>	<p>【令和4(2022)年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 藻場再生活動（分布域調査、ウニ駆除） 協議会の設立 地域資源を活用したエコツアーの開発 普及啓発ツール（アオリイカのオーナー制度のパンフレット）作成 好循環形成の方向性等の検討、など <p>【令和5(2023)年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> テングサ等の母藻設置による藻場の再生活動や藻場の分布状況調査 食害生物であるウニ類の駆除 エコツアー（クリアカヌー等）や環境学習会（生物観察会等） 柏島の海産物等を活用した郷土料理づくりのワークショップの検討や新たな商品の検討 普及啓発ツール（海域環境の変化等を改札した小冊子）の作成 シンポジウムを開催し、里海づくりに関する情報発信等を実施 好循環形成ビジョン検討、など
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 母藻の設置や藻場の分布状況調査、ウニ類の駆除を実施し、藻場の再生活動を実施し、今後の保全計画を検討。 エコツアーや環境学習会、郷土料理づくりのワークショップを開催し、都市と地方の交流を交えた里海づくりの形成を促進。 シンポジウムの開催や普及啓発ツールの作成により、地球環境の変化に伴う、海洋生態系の変化について都市部の住民へ発信。
<p>今後の課題・展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各団体の主体性が乏しいため、協議会としてのビジョンを設定し、個人による活動から脱却を図ることが今後の課題。 里海づくりと南海トラフ地震の発生を想定した災害リスクマネジメントの構築を行っていききたい展望を有する。



郷土料理づくりのワークショップ



シンポジウム